

「高校生論文コンテスト 2025」講評

【学長賞】

さいたま市立大宮国際中等教育学校4年 清水結衣さん

「やりたいけどできない」が減る社会に向けて—ブラインド・バドミントンの挑戦—

学長賞を受賞した清水結衣さんの論文「「やりたいけどできない」が減る社会に向けて—ブラインド・バドミントンの挑戦—」では、執筆者が盲学校に赴いて「やってみたいスポーツ」のアンケートを実施したところ、バドミントンを挙げる生徒が多数を占めたことから、視覚障がい者がスポーツとして競技するためのバドミントンの開発を目指しています。その上で、こうしたブラインド・バドミントンの開発は、視覚障がい者同士の閉じた競技ではなく、健常者がアイマスクを装着することなどで、視覚障がい者と健常者が公平なルールのもとで競技できる社会包括的なスポーツの機会を提供すると位置づけています。こんにち、パラリンピックなどでは複数のブラインド・スポーツが採用されていますが、清水さんの論文も包括社会を実現するための一つの提案・実践として、高く評価されました。

【優秀賞】(五十音順)

青森山田高等学校広域通信制課程1年 千田立煌さん

「消費行動と寄付の融合—コスト最適化から生まれる新たな寄付の仕組み—」

優秀賞を受賞した千田立煌さんの論文「消費行動と寄付の融合—コスト最適化から生まれる新たな寄付の仕組み—」は、決済の利便性や効率を高めるための仕組みであるキャッシュレス化の進展が、一方で募金機会や寄付金額の減少をもたらしている現状に着目し、業務スーパーのコスト節減手法を一般商品に応用することで、コストの削減分を寄付に充てるアイデアが述べられています。消費者や生産者の追加負担がなく、企業は社会的責任をアピールできる点、社会実装に当たってはアプリの導入などで透明性の確保にも言及している点など、効率化社会の弊害をうまく乗り越えるための着想が高く評価されました。

兵庫県立長田高等学校3年 松田芽依さん

「外国人観光客と日本人の幸福観の比較から考える、高校生を交えた新しい観光の提案」

優秀賞を受賞した松田芽依さんの論文「外国人観光客と日本人の幸福観の比較から考える、高校生を交えた新しい観光の提案」は、日本の特定地域で発生しているオーバーツーリズムの問題に対処するとともに、外国人観光客が充実した観光を楽しむための試案が提示されています。執筆者は、兵庫県が公表した観光戦略を参考にしながら、外国人観光客と日本人の双方にアンケートを実施した結果、外国人観光客は「その土地に赴いて学ぶことのできる体験型観光」を求めており、その実現のためには高校生などの地元住民が先導役を務めて、観光客が地方を訪問するためのハードルを下げる仕組みが必要であると指摘しています。地道な調査をふまえた分析と提案が高く評価されました。